

幼児生活団 設立の経緯

羽仁もと子・吉一と説子、幼児教育の理念



幼児生活団は1939年1月、羽仁もと子とその長女説子を中心に自由学園明日館敷地内で始められました。家庭との協力による独自の幼児教育の場です。

写真：幼児生活団に最初に入団した子どもたちと羽仁もと子（1939年3月ひな祭りの日に）

1903年 羽仁もと子・吉一夫妻

『婦人之友』（『家庭之友』を改題）を創刊

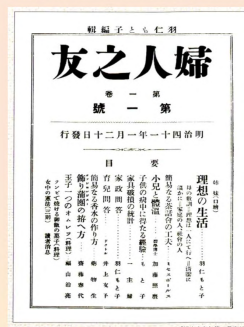
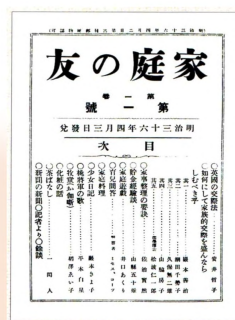
創刊号が刊行されたのは長女の説子が誕生した翌日

記者、妻、働く母でもあるもと子にとって、自らの家庭が直面するさまざまな問題は生きた教材となり、雑誌はその実験や発見を伝える場となっていった。

もと子は初めての子ども・説子を育てる中で、子ども自身にあたえられている生きる力、自力を強く感じ、どのようにしたらその力を伸ばせるのか、よりよく育つにはどのように接したらよいのかと日々考えを重ねていく。そして感じたことを誌上で発信した。



1904年 羽仁説子1歳の誕生日に



『家庭之友』『婦人之友』に掲載した記事を、後に『羽仁もと子著作集第10巻 家庭教育篇（上）、同11巻（下）』（1928年発行）にまとめる



①1906年 雑司ヶ谷墓地 次女涼子の墓前にて 羽仁吉一、もと子、長女説子 ②1905年 長女説子と次女涼子 ③「家庭の友」1巻1号(1903年)表紙
④「家庭女學講義」2号(1906年)表紙 ⑤「婦人之友」1巻1号(1908年)表紙 ⑥1903年 羽仁吉一・もと子夫妻と説子

わが子の「自力」に感動する

今生まれた赤ん坊がつよい飢えを感じて母親の乳房に吸い付く、「自分で生きる力」——もと子が深く心動かされたのは、子ども自身もつ、生きることへの強さでした。

「おさなごを発見せよ」ともと子は訴えました。子どもを大事にするといいながら、子どもの「強い自力」に気づいている大人は多くない、子ども自身の「真の生命の要求」を無視し、大人の都合や常識で育ててしまうと、それはやがて子どものみずから生きる力を弱めてしまう。もと子は大人たちに、敬虔な信頼をもって「おさなご」に目をこらそう、「発見しよう」と呼びかけたのでした。

悲哀を信仰に

しかし、人の生は死と隣りあわせでもありました。羽仁夫妻には説子、涼子、恵子（のちに自由学園二代目学園長）と3人の子どもがいましたが、次女涼子を1歳7か月で肺炎のため失くしています。あまりに突然つきつけられたわが子の死に煩悶しつつ、「私共はまた涼子の必ず天国に行ったことを疑わない」、これまでに十分に信じることの出来なかった天国の存在をも信じて、悲哀のなかに慰めを得た、と夫妻は書いています。

もと子の「おさなごを発見せよ」は、人間の限界と、それをこえて働く神の愛への信仰を下敷きにして語られたものでした。

自由学園作成のパネル
『「おさなごの発見」をねがって』より
全6枚のパネルは、右のQRコードからご覧ください。
(自由学園デジタルアーカイブで公開)





① 羽仁もと子編「ネルの勇気」(愛友社,1907年)表紙 ② 1910年頃 羽仁家団らん 中央に長女説子と三女恵子 ③ 「子供之友」3巻4号(1916年)表紙
 ④ 1910年頃 羽仁吉一・もと子夫妻、説子、恵子

「説、あなたは どう思う」

もと子と吉一の家生活や子育ての様子を、長女説子の視点からみてみましょう。

新しい家庭、新しい社会の建設という理想にもえていたもと子と吉一の家生活は、封建的な生活を脱し新しい生活を模索する、「実験」の日々でした。そうした両親のもとでの幼年時代を、説子は「しあわせだった」といっています。

忙しい共働きの家庭でしたが、母が時々すべてを放り出して一緒に本を読んでもくれたり、話を聞いてくれた時間のことを、説子は楽しく振り返っています。また、母が幼い自分を一人の人格としてみとめ、「説、あなたは どう思う」と人まねでない自分の考えや行動を重んじたことは、「独立の判断」こそ尊い、美しいのだと教えてくれた父母の教育だったと、説子は述べています。

自由と独立の意気

幼い説子が「独立の判断」をしようとする姿は、母もと子を驚かせ、学ばせるものでもありました。小学生になった説子が、髪型のことで母もと子の考えとは違う髪型を「美しいとおもう」といい、母の判断と違っても自分として良いものを選んで行動したことがありました。そのことを通じて、もと子は、子どもの人格の独自性、性質の違いというものをつくづく教えられたと書き残しています。

子どもの成長とは独自の人格の成長です。やがて思春期にさしかかった説子は、「親から独立して、社会の動きをじかにうけとめてみたい」と強く願うようになります。「独立の判断の美しさ」を教えたもと子と吉一の家教育は、説子を自由と独立の意気に富む人間へと導いたのでした。

自由学園作成のパネル

『「おさなごの発見」をねがって』より

全6枚のパネルは、右のQRコードからご覧ください。

(自由学園デジタルアーカイブで公開)



仕事を持つ母として 子どもと向き合う

長女説子が語る母・羽仁もと子

「幼い私を育ててくれた頃の母は、共働きのジャーナリスト、つまり日本の最初の婦人新聞記者でしたから、私は70年前の『鍵っ子』というわけです。」

幼いものを一個の人格として扱うことは、口でいうようにたやすくはありません。子どもにむかって、かみくだいた理屈をいう先生やお母さんがあるけれど、子どもとの人間関係が対等である人は少ない。私の母は決して暴力をふるわなかったかわりに執拗にくいさがると、いつも最後には



あなたがどう考えるか、それは説の自由だよ

それをいってしまうと、ケロリとして決して悪追いをしませんでした。しかし、忙しい母が私にあずけた小さいゲタを子どもは決して忘れませんでした。2, 3日たってから親子で近くの銭湯に行く道すがら

このあいだのことね……



そうだ、このあいだ母さんがたのんでおいたことね、少しいすぎたかと心配していたよ、あなたの返事を聞きたい

幼いながら、ここまで対等の友だち扱いされると、いいかげんにいうことはできない

きのうはこうとおもったけれど今日は反対のことを考えている、ほんとうの返事はまだ決まっていない



「一週間に二度ぐらいだったとおもいますが、夜、私がねこけてしまわないうちに、母は帰ってきて万事を放棄、私の傍らに添寝して、心をこめて本を読んでくれました。」

「母は忙しい暮らしにもくずおれず、いつも私という幼児をひとつの人格として扱ってくれたことが、私自身のなかにある幼児をみずから発見し、それに興味をもちつつけるきっかけをつくってくれたのだとおもいます。」

羽仁もと子・説子 幼児教育への関心が高まる

羽仁もと子・吉一は教育をはじめ、
よりよい社会を目指して活動の幅
を拡げていった

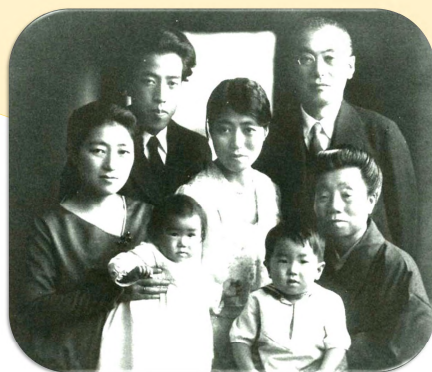
- 1914年 『子供之友』創刊
- 1921年 自由学園を創立（女子部）
- 1927年 自由学園小学校（初等部）創設
- 1930年 全国友の会成立
- 1931年 「家庭生活合理化展覧会」開催
（幼児の生活に関連する内容も）
- 1932年 羽仁もと子 ニースでの世界
新教育会議にて日本代表で講演
- 1935年 自由学園男子部創設



自由学園明日館（創立当初の校舎）



大会1日目（自由学園講堂にて）



羽仁一家（1930年）

羽仁もと子・吉一夫妻と三女恵子（中央）

『婦人之友』の記者として活躍していた長女羽仁説子（左端）と、夫五郎・子どもたち

羽仁説子は
1924年自由学園を卒業、
婦人之友社へ入社

やがて結婚し母親となった説子も
また幼児の健康や教育に関心を
持ち、もと子の支持を得て
『婦人之友』誌上で発信する

幼い子どもを病で亡くす経験も経て

幼児のよりよい教育が必要と考えていたもと子は、乳幼児の生活、幼児の教育に関心を持ち活動する説子を認めて応援した。もと子は二女涼子を、説子も長女立子を1才7か月で病で失っている。羽仁説子は乳幼児死亡率の高い当時の現状への問題意識も持っていた。

1937年

乳幼児の生活実態調査と研究を開始

羽仁説子を中心に、
自由学園卒業生による幼児研究グループ発足

【研究分野】

- 幼児の保育
栄養・健康・衣服・玩具
- 幼児の精神生活
羽仁もと子の思想を礎に

- ◆ 調査研究には、自由学園卒業生の母子、および全国の友の会会員6,000名余り、他多数の母親が協力
- ◆ 海外のナースリースクールの視察結果も参考に
- ◆ 根気よく調べた調査結果を持参し、専門家の考えを聞く
- ◆ 羽仁もと子の思想は、展覧会の上記の研究・提案を貫く土台

「身体（からだ）は弱いけれども、精神（こころ）の強い人はある。しかし霊性（たましい）の強い人は少ないものである。私たちの子供らをこの三つの力の強い人にしたい」

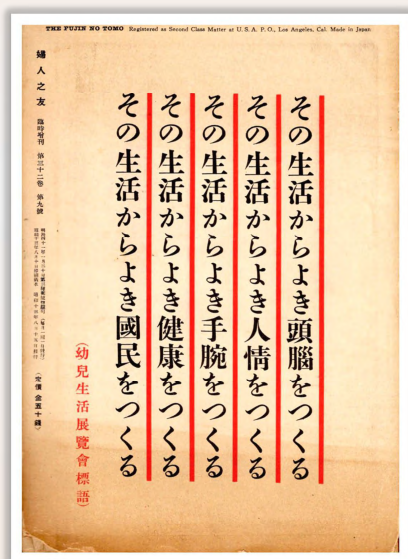
1938年 6月～7月

「幼児生活展覧会」を明日館にて開催

婦人之友建業35年記念事業 主催：婦人之友社・全国友の会

全国33か所をまわり、延べ29万人が来場

【展覧会のモットー】



『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）
裏表紙

『婦人之友』1938年7月号での紹介

- ◆「この展覧会の第一の特色は、目新しい知識の羅列や翻案ではなく、女性の手によって幼児たちを実際に観察し調査しその生活を苦心整理し、どこに不徹底があるか、どこから不合理が来るかをはっきり捉え示した点であります。」
- ◆「そこから日本の愛する幼児のすぐれた発達のために、小言でない躰でないお説教でない所の、最も自然な賢い独創的な幼児教育の新しい方法が生れて来たのでございます。」



『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より



展覧会会場の「子供遊び場」
（自由学園資料室所蔵）

幼児生活展覧会の内容から

羽仁もと子は、「おさなごを発見せよ」の文章を通して、子ども自身がその生命の中に授かっている力を信じ、目の前の子どもをまずよく見て知ること、そして持って生まれた力を存分に発揮できるように大人は工夫していくことを提案。

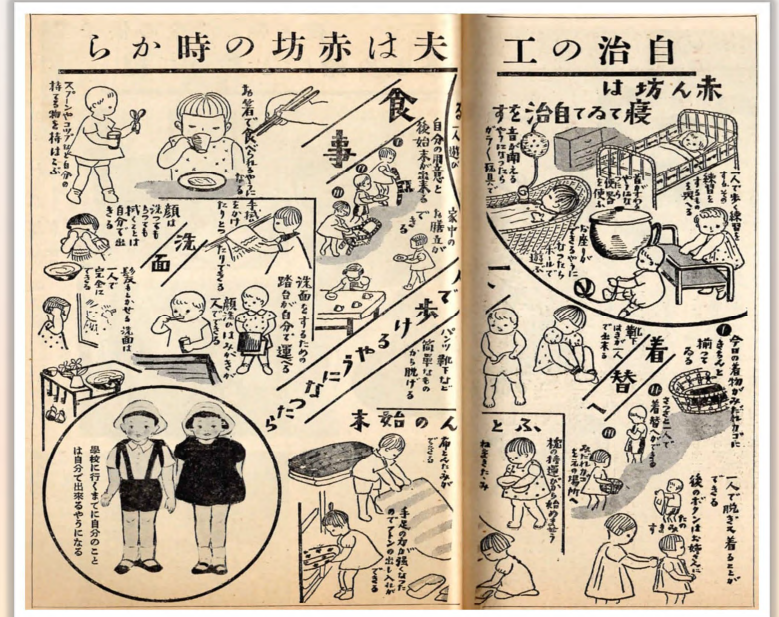
展覧会では調査研究に基づいた具体的な工夫を発表した。

幼児の保育

幼児の四回食
乳児体操
室内の換気
病気に関すること
薄着の工夫
玩具の与え方 等

幼児の精神生活（生活の朝・昼・夜）

自治の工夫は赤ん坊の時から
子供自身に生活を営ませる
一家総動員
根気のよい一人遊び
兄弟友達との賑やか遊び
協力仕事
夜寝る前の生活
子供のうた

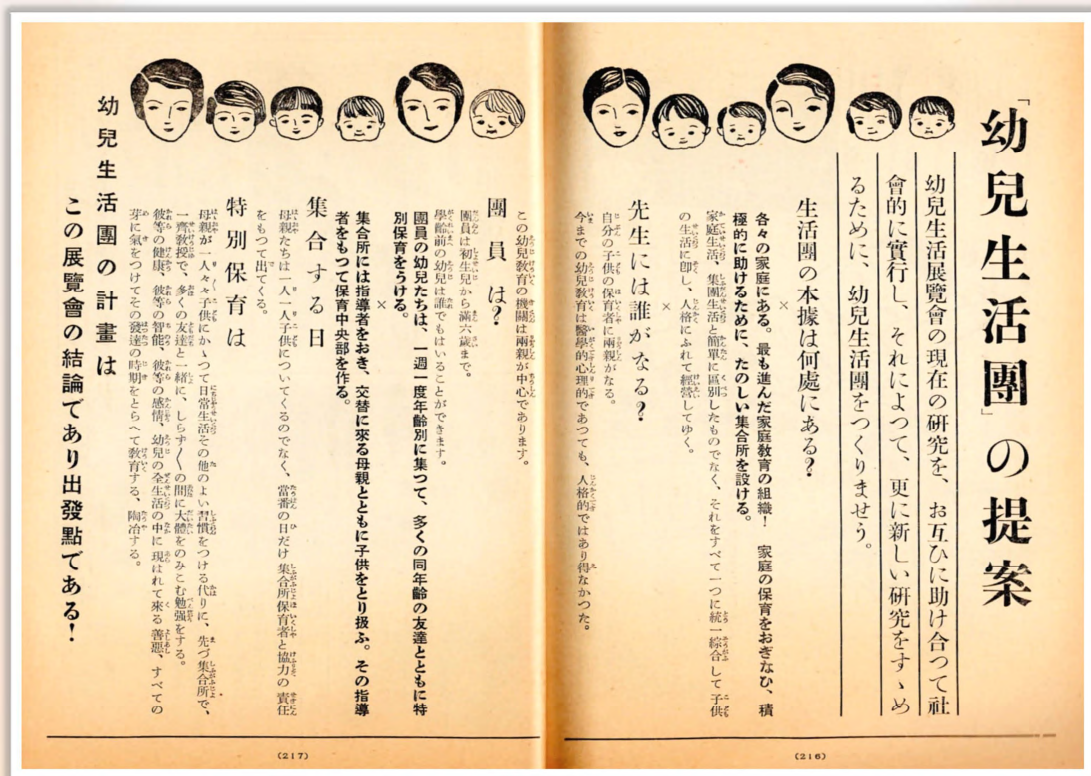


『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』
(1938年8月) より

幼児生活展覧会で 「幼児生活団」の設立が提案される

展覧会の研究結果を実践する場、生活の中で子どもの人格と自主性を尊重し、家庭と協力しながらすすめる幼児教育の新しい場として「幼児生活団」の設立が提案された。

羽仁もと子による「おさなごを発見せよ」の文章とともに、展覧会の内容はただちに臨時増刊号にまとめられて同年8月に出版、全国各地の読者にも幼児生活団の設立が呼びかけられた。



『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）

幼児生活展覧会に際し、羽仁もと子が著した文章から

おさなごを発見せよ

おさなごを新たに発見するとは
どういうことであるか。

おさなごはみずから
生きる力を与えられているもので、
しかもその力は親々の助けや
あらゆる周囲の力にまさる
強力なものだということを、
たしかに知ることです。

そうしてその強い力が、
われわれに何を要求しているかを
知ることです。

人は赤ん坊のときから、
その生きる力は
それ自身の中にあります。

『羽仁もと子著作集第18巻 教育三十年』より
初掲出『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』
(1938年8月)

婦人之友社が原文を元に編集し、『別冊婦人之友 親も子も「ホッ」とできる
居場所、あります』2023年6月発行に掲載した文をご紹介します。

目次『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』(1938年8月)

「幼児生活展覧会」の発表内容

今に引き継がれるさまざまな研究

子どもの生活については、その後も社会状況の変化に応じて、実態調査を踏まえた研究・提案が行われてきた。現在も全国各地の友の会で続けられており、『婦人之友』と共に発信している。

◆ 寫眞版 ◆

婦人之友臨時増刊「幼児の生活と教育」目次 第三十二巻 第九號

子供の體格……………子供に觀察させる
日光浴……………カネノコトセイタケ
乳児體操……………百日咳隔離の家
幼児體操……………生活から教へられたおもちゃ

◆ グラビア版 ◆

別冊 乳児體操・幼児體操年齢別一覽表……………

をさなごを發見せよ……………羽仁もと子

幼児生活展覧會の出來上るまで……………羽仁もと子

幼児發育の標準……………

榮養

離乳の研究……………

離乳の方法……………離乳時の獻立例

ミソ齒をなくする工夫……………

離乳の完成した子供に四回食事の提案……………

一日の基本分量……………

四回食獻立例(満二年半までの獻立)……………

四回食獻立例(満三年から四年半までの獻立)……………

四回食を實行したまんの實例……………

健康

生れた時から正しい方針をもつた積極生活……………

1. 生れた時から乾布まき……………

2. 赤坊は生後半日から日光浴……………

3. 乳児體操の實行……………

4. 窓を開けて變る習慣……………

【實例】日光浴・乳児體操・幼児體操で育つた赤坊の昭廣さん……………

【實例】赤坊のときから開放した寢室で育てる……………

【實例】大病のあとに開放生活の實行……………

【實報報告】自自由園小學部兒童によつて試みた開放大氣健康法……………

母親の協力によつて社會から病氣をなくしたい……………

調査にあらはれた罹病率……………

1. 麻疹の豫防血清の實行……………

2. 赤痢・疫痢……………

3. 百日咳隔離の家……………

4. 近視について……………

5. 幼兒の足の研究……………

衣服

薄着の工夫……………

赤坊衣服一揃ひの縫ひ方……………

新案の半袖下着・遊び着・ハンガマの縫ひ方……………

赤坊とおむつ……………

空箱を利用して可愛らしい子供靴の作り方……………

私どもの考案した便器……………

玩具

玩具の研究……………

新しく多へた玩具の與へ方プラン……………

自然のおもちや……………

幼童の精神教育

生活の朝……………

朝は一日の希望と計劃とで満したい……………

一日の計劃を話し合ふ……………

【實例】自治の工夫は赤坊の時から……………

朝の散歩は父親の受持ち……………

【實例】子供自身に生活を轉させる……………

一家總動員……………

生活の晝・活動の晝……………

子供の遊びについて……………

1. 根氣のよいひとりとあそび……………

2. 兄弟友達との賑が遊び……………

3. きまつた役目時に起る仕事……………

4. 協力仕事……………

子供に觀察をさせた経験(座談會)……………

生活の夜……………

睡眠について……………

子供のうた……………

◇おやすみ ◇病氣 ◇雨

◇夕日 ◇おるすばん ◇ひとり寝のうた

集合所の仕事の一部……………

1. 生活訓練……………

2. 幼兒の音樂教育……………

3. おもちやが廻つてくる……………

4. 健康生活も生きた教材……………

子供が一人で驢馬を飼つた話……………

ロハが好きな became 菜ちゃん……………

◆東京に開かれた幼児生活展覧會◆

會場風景……………

子供の遊び場……………

諸家の批評……………

(生活から教へられたおもちゃ買物案内……………)

◆ 寫眞版 ◆

婦人之友臨時増刊「幼児の生活と教育」目次 第三十二巻 第九號

子供の體格……………子供に觀察させる
日光浴……………カネノコトセイタケ
乳児體操……………百日咳隔離の家
幼児體操……………生活から教へられたおもちゃ

◆ グラビア版 ◆

別冊 乳児體操・幼児體操年齢別一覽表……………

をさなごを發見せよ……………羽仁もと子

幼児生活展覧會の出來上るまで……………羽仁もと子

幼児發育の標準……………

榮養

離乳の研究……………

離乳の方法……………離乳時の獻立例

ミソ齒をなくする工夫……………

離乳の完成した子供に四回食事の提案……………

一日の基本分量……………

四回食獻立例(満二年半までの獻立)……………

四回食獻立例(満三年から四年半までの獻立)……………

四回食を實行したまんの實例……………

健康

生れた時から正しい方針をもつた積極生活……………

1. 生れた時から乾布まき……………

2. 赤坊は生後半日から日光浴……………

3. 乳児體操の實行……………

4. 窓を開けて變る習慣……………

【實例】日光浴・乳児體操・幼児體操で育つた赤坊の昭廣さん……………

【實例】赤坊のときから開放した寢室で育てる……………

【實例】大病のあとに開放生活の實行……………

【實報報告】自自由園小學部兒童によつて試みた開放大氣健康法……………

母親の協力によつて社會から病氣をなくしたい……………

調査にあらはれた罹病率……………

1. 麻疹の豫防血清の實行……………

2. 赤痢・疫痢……………

3. 百日咳隔離の家……………

4. 近視について……………

5. 幼兒の足の研究……………

衣服

薄着の工夫……………

赤坊衣服一揃ひの縫ひ方……………

新案の半袖下着・遊び着・ハンガマの縫ひ方……………

赤坊とおむつ……………

空箱を利用して可愛らしい子供靴の作り方……………

私どもの考案した便器……………

玩具

玩具の研究……………

新しく多へた玩具の與へ方プラン……………

自然のおもちや……………

幼童の精神教育

生活の朝……………

朝は一日の希望と計劃とで満したい……………

一日の計劃を話し合ふ……………

【實例】自治の工夫は赤坊の時から……………

朝の散歩は父親の受持ち……………

【實例】子供自身に生活を轉させる……………

一家總動員……………

生活の晝・活動の晝……………

子供の遊びについて……………

1. 根氣のよいひとりとあそび……………

2. 兄弟友達との賑が遊び……………

3. きまつた役目時に起る仕事……………

4. 協力仕事……………

子供に觀察をさせた経験(座談會)……………

生活の夜……………

睡眠について……………

子供のうた……………

◇おやすみ ◇病氣 ◇雨

◇夕日 ◇おるすばん ◇ひとり寝のうた

集合所の仕事の一部……………

1. 生活訓練……………

2. 幼兒の音樂教育……………

3. おもちやが廻つてくる……………

4. 健康生活も生きた教材……………

子供が一人で驢馬を飼つた話……………

ロハが好きな became 菜ちゃん……………

◆東京に開かれた幼児生活展覧會◆

會場風景……………

子供の遊び場……………

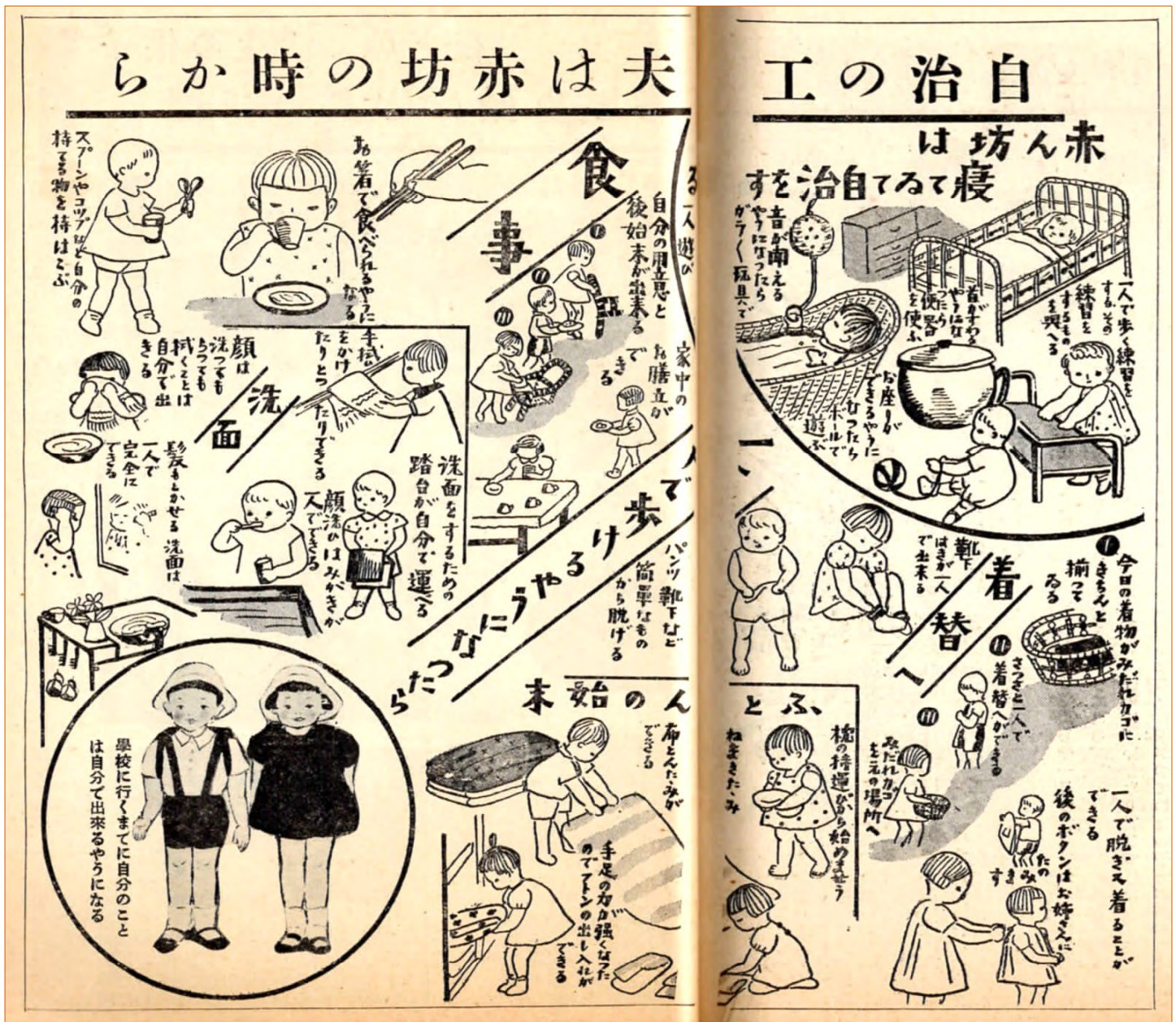
諸家の批評……………

(生活から教へられたおもちゃ買物案内……………)

『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より

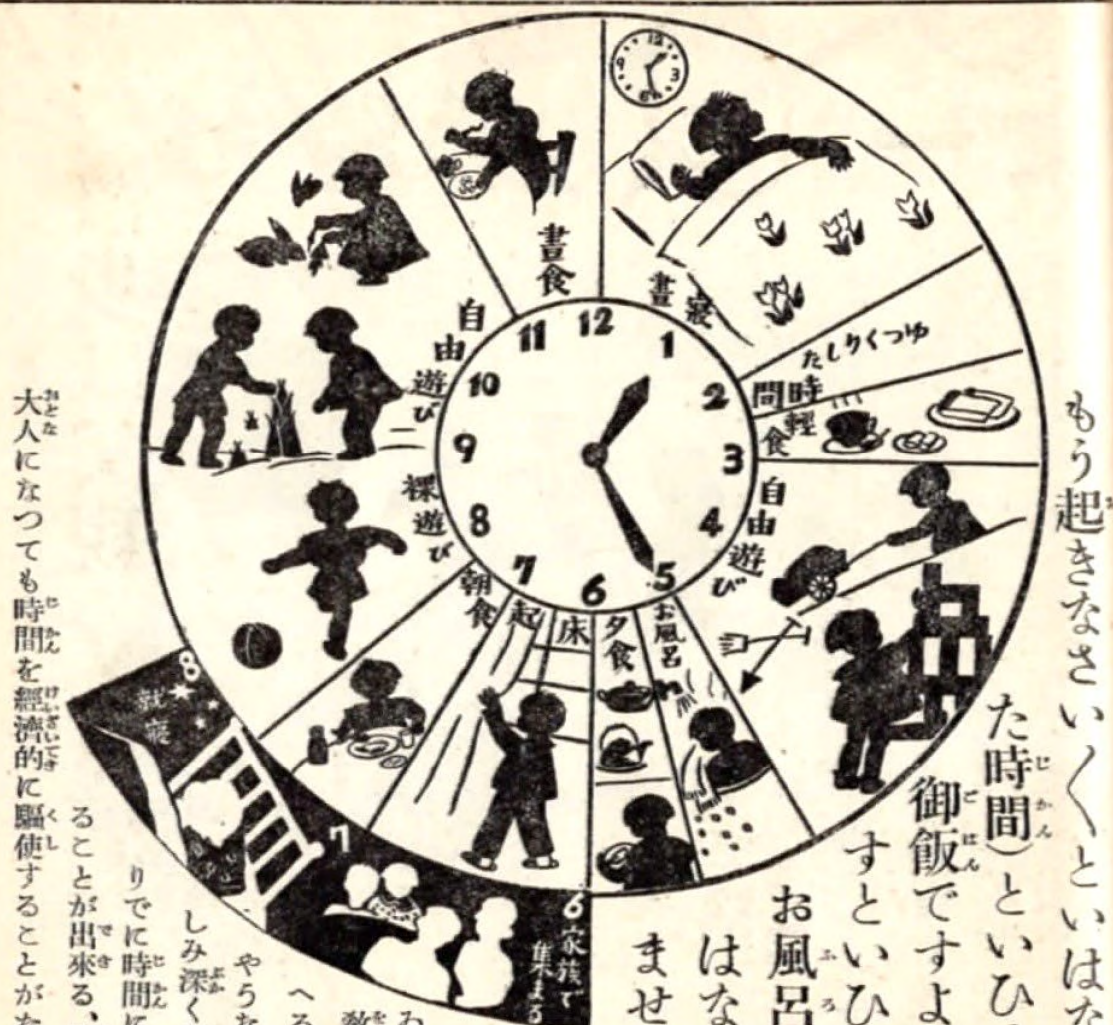
以下のページでは、生活の様子が変化した現代の子どもたちにとっても大切な考え方が提案されていると思います。
これらをヒントに皆さまも考えてみませんか。



『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より

るせま營を活生に身自供子



もう起きなさいといはしないで、何時です（定め

た時間）といひませう。

御飯ですよといふよりも、何時で

すといひませう。

お風呂に入りなさいとい

はしないで、何時ですといひ

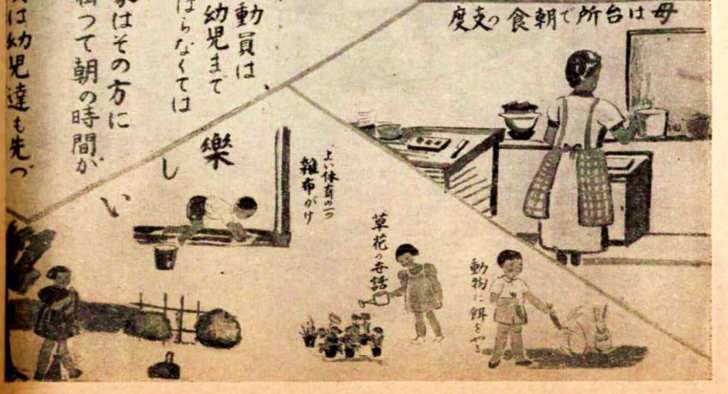
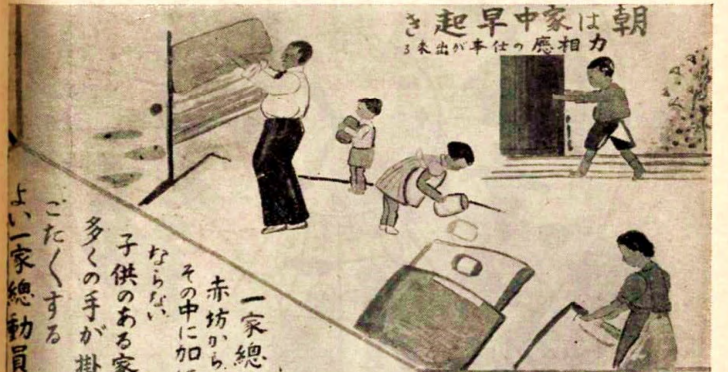
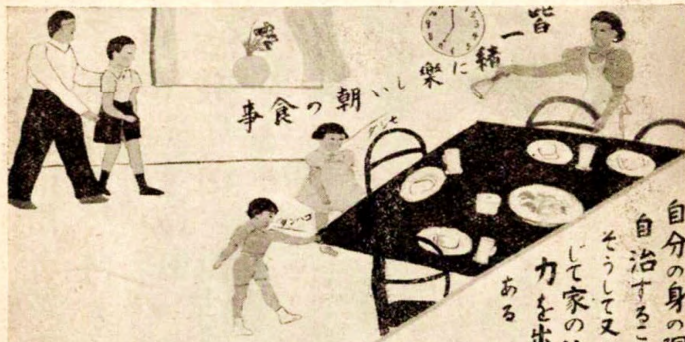
ませう。

大人になつても時間を経済的に驅使することが出来る、時間を守ることが努力しないで出来る。

定められた時間に寝、定められた時間に起ることは、ひとりでの時間の観念を教へることです。人間は時間の中に生きてゐる。それを大きくなつてから機械的に教へ込み、時間を守るべしといふ風に教へると、時々時間を守ることがかり解つたやうな人間が出来てしまふ。幼児の時から親しみ深く自然に時間の訓練をすれば、子供はひとりでの時間に注意するやうになり、正しい時間を知ることが出来る、時間を守ることが努力しないで出来る。

『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より



『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より

—うせまめきを定豫てし夫工で家—

<p>工イセイ</p> <p>三月二日ハ 検便ヲシメセウ サンバツ</p>	<p>フントシ</p>	<p>ジヨウ</p> <p>ヨウジ ホシ</p>
<p>ヒアライ</p> <p>カミ</p>	<p>退治</p> <p>鼻たらし 鼻いじり 手をくわへる</p> <p>鼻をたらしてゐる子供はをかしと思ひま</p> <p>鼻をたらせんか。をかしいばかりでなく體のためにもよくありません。鼻や手をくわへることは悪い癖です。</p>	
<p>ミミ</p> <p>サウデ</p>	<p>爪切り日</p> <p>定めませう</p> <p>みなさん自分の爪を御覽なさい、のびた爪の中には澤山のバイ菌が入つてゐます。自分からお母様におたのみして切つて頂ませう。</p> <p>んを食べるものではありませんか？ 小さい中は洗つて頂いても三つになつたら誰だつて洗へます。</p>	

—おのれぞれそ—

<p>オセ</p> <p>センタク</p>	<p>キガ</p> <p>ヘ</p>
------------------------------	---------------------------

ウガヒ

うがひをするとき、うがひをすゝと氣持のよいものですね。何故でせう。それはうがひをするとき、喉のついでに、鼻や口の中にも水が流れて出てゆきます。この水の中には必ず口ゆすぎとうがひをします。うがひをする結果、鼻の奥の細菌なども洗い流すことが出来ることとなります。

ハミガキ

歯は、何故出来るのでせう。歯にあめや御飯つぶがついたまゝ、寝るからで、小さい時はお母様に手傳つて頂ませう。三つになつたら誰だつて一人で出来ます。

たのしんでしませう 子供の衛生

衛生々々と子供を迫り、過したり神経質にしたりするのではなく、子供自身が當然實行しなくてはならないものとして、自分の生活に結びつけるやうにしたい。それにはかうして早くから母親の助けによつて習慣づけるのがよい方法です。

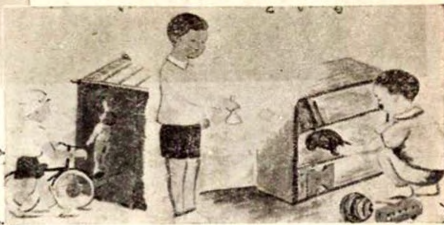


『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より

時のリーダー

「もう何時です」へ決めた時間と時のリーダーがいへば、すぐに遊びの後始末を始める。家中の人が時間を勵行するために、母親ばかりでなく兄さんも姉さんも代るくく時間のリーダーになる。



それは正しい生活をするためにも又一方兄さん姉さんが、小さい弟妹を保護する世話をするといふ意味においても實に大切なことです。母親が一人で何でもすることは、一家のよい自治のために却つてよくないこととなります。夕方の時間は、幼児も頼まれた家の仕事をしたり、落ちついて繪本をみたりします。

生活の夜

希望にみちた朝、私たちの家族は、盛んな一家總動員に始まり、秩序ある静かな楽しい夜の生活に終る。

それが明日へのよき備へてある。

夕方子供がさわぐ、氣忙しい親がとがめる、學校から歸つた兄さん姉さんがからかふ、といふ混雜の中に送ることがないやうに、亂雜な夕方の光景を私たちがからなくしたい。

夜のよい生活は夕方から始まる。

幼い子供でも大人に對する感謝と同情をもつて、その忙しさを感得るやうでなければならぬ。

夕方の

お風呂



新しい着物をお母さんと一緒にそろへる。だんくならして一人で出来るやうになる。



お風呂へはいる



お風呂から上つて汚れ物は洗濯籠へ入れる。

『幼児生活展覧会』での提案から

『婦人之友臨時増刊号 幼児の生活と教育』（1938年8月）より

おやすみ

今日はありがとう
元氣だつた面白かつた
お日様ねんねしたやうだ
私もねんねをいたします
お休みなさいありがとう

よい一日の生活は、自からなる感謝を以て
終る。自然の詩情が湧き出して来る。よい宗
敬心はまづその中に芽を出すことを、母親は
忘れてはならない。
希望の朝に活動の晝に、さまざまの詩が子
供の胸に湧いてゐる。



(210)

夕日

今日はありがとう
きれいな夕日
むかふに何があるだらう
お休みなさい
ありがとう



(213)

